



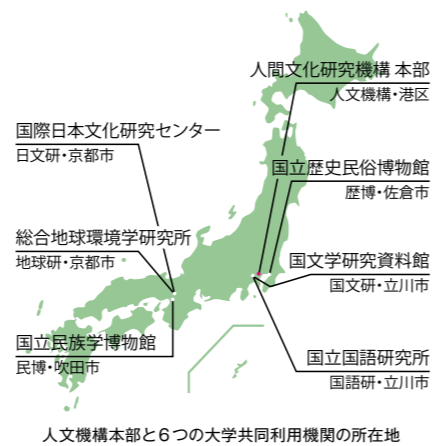
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称:人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

研究推進・情報発信事業

人文機構は、平成28年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組めます。



4つの大学共同利用機関法人



人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地

総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
連携領域	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
ネットワーク型	アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業: 北東アジア、現代中東、南アジア
日本関連在外資料調査研究・活用事業: ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用 ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用	

総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihu INT http://int.nihu.jp 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース http://nrd.nihu.jp/search?m=home&l=ja 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 http://www-e.nihu.jp/sougou/kyoyuka/japan_links 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine http://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム 研究活動及び研究成果を広く社会に発信 第28回 妖怪空間—でそうな場所— (平成28年6月) 第29回 和食文化の多様性—日本列島の食文化を考える— (平成28年10月)
社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進

基幹研究プロジェクト

機構の6機関と国内外の大学等研究機関、地域社会等と広領域連携する新たな研究システムのもと、(I)機関拠点型、(II)広領域連携型、(III)ネットワーク型(地域研究および日本関連在外資料調査研究・活用)の3類型、17の基幹研究を推進しています。各プロジェクトの研究成果は、出版、データベース、映像や展示等により学界や社会にむけて発信するとともに、連携する大学と教育プログラムの構築・活用をする計画です。また、各プロジェクトの研究成果をまとめたニュースレター『きざし』も発行しています。

国際連携

人間文化研究にかかわる諸外国の研究機関との研究協力関係を構築し、外国人研究者招へいや研究者の海外派遣を進めるとともに、海外での国際シンポジウムの開催、講師の派遣を積極的に推進しています。また、英国の芸術・人文リサーチ・カウンシル(AHRC)との協定に基づいて日本研究を専攻する大学院生・若手研究者を受け入れて研究指導を行うなど、海外の研究者育成にも寄与しています。

社会連携

人間文化研究成果を広く発信し、社会に還元することを目的として、一般向けのシンポジウムや各種メディアの記者等を対象とした懇談会を、多様な業界と連携して定期的に開催しています。2016年度は、NPO法人Earth Literacy Programと連携してデジタルコンテンツ「水の器」を制作し、「触れる地球ミュージアム」で展示しました。また、公益財団法人味の素の文化センターとの共催によるシンポジウムや一般社団法人大学出版部協会との共催によるメディア懇談会を開催しました。

大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻(博士後期課程)を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。



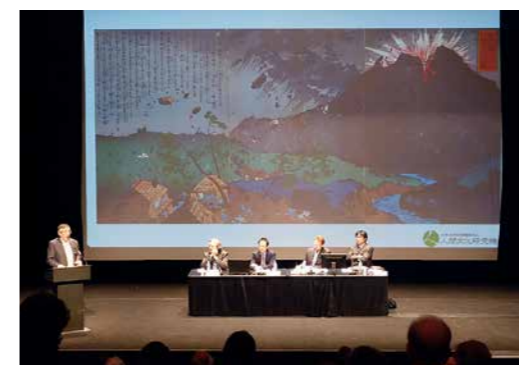
国際ワークショップ「パチカン図書館所蔵マレガ文書の保存と修復—技術の交流と創発—」(於:パチカン図書館)



フランス社会科学高等研究院(EHESS)との学術交流・協力協定を締結



第28回人文機構シンポジウム「妖怪空間—でそうな場所—」(於:有楽町朝日ホール)



パリ日本文化会館との連携キックオフ・シンポジウム「厄災の時代を生き抜くための人文知」(於:パリ日本文化会館)



デジタル地球儀「触れる地球」のコンテンツ「水の器」